

第1章 杵築市で大切にしたい景観を形成するために

～景観形成の基本的な考え方～

1. 景観形成の目標

杵築市では、「杵築市総合計画*（H19.4 策定）」において、将来像に「歴史と文化の薫り高さ 豊かな感性があふれるまち」を掲げています。そこで、将来のまちの姿の実現に向けた景観形成が必要であり、以下の目標を掲げます。

豊かな感性を育むことにつながる、地域を磨く景観形成

2. 景観形成の心得

杵築市では、海から山まで変化に富んだ豊かな自然に抱かれながら、脈々と繰り返されてきた人々の営み、そこから育まれた文化により、本市の景観は形成されています。これを踏まえ、杵築市では「景観形成の心得」として、以下の5つを掲げ、市民・事業者・行政で共有し、その実現に努めます。

心得1. 地形・歴史・文化を受け継ぐ佇まいを大切にする

南北の高台にある武家屋敷群と谷筋の商人町を結ぶ坂道が印象的な「坂道の城下町」、^{くにしき}国東半島全体で継承されてきた^{ろくごうまんざん}六郷満山*の文化が色濃く残る石造物や寺社、各地域の集落に残る伝統的な行事や祭礼などは、今なお人々の生活に密接に関係しながら杵築市の個性を形作っています。

このような地域が本来持っている歴史・文化や、背景となる地形を保全・継承し、伝統的な佇まいを大切にしたい景観形成を進めます。

心得2. 暮らしを彩る豊かな自然を大切にする

豊かな恵みをもたらす^{もりえわん}守江湾や^{いよなだ}伊予灘、穏やかな丘陵地、特徴ある山容を持つ山々など、本市が有する多様な自然は、それ自体がかけがえのない地物であるとともに、普段目にする景観の基盤となっています。

このような自然は、日々の暮らしに彩りとやすらぎを与える源であることから、適切な保全・活用を図り、豊かな自然を大切にしたい景観形成を進めます。

心得3. 賑わいと秩序のある身近な生活の眺めを大切にする

旧市町村の中心部及びその周辺や幹線道路沿いなどは、多くの人々が生活の場として利用し、日常的によく目にされるため、そこからの眺めは特に重要です。

このような場所では、市民や来訪者が賑わいと秩序を感じられるよう、建築物や屋外広告物*等にルールを設ける、視点となる場の良好なデザインを誘導するなどの取組みにより、身近な生活の眺めを大切にした景観形成を進めます。

心得4. 農林水産業や集落と一体となったなりわいの風景を大切にする

丘陵地を活かした茶園やみかん園、八坂川沿いに広がる田園、山間地の農地と集落、漁業集落などは、本市固有の風土の中で、人々が永きに亘って築いてきたなりわいの風景です。

これらの風景は、脈々と受け継がれてきた杵築の原風景ともいえるものであることから、農林水産業振興施策等との連携を図りながら、なりわいの風景を大切にした景観形成を進めます。

心得5. 杵築らしい眺望を大切にする

豊かな自然を背景に、独特の地形・歴史・文化を有する本市では、各所で良好な眺望を楽しむことができます。特に、杵築城から見る守江湾や坂道から見る城下町の眺望は、本市を象徴する大切な景観といえます。

このようによい眺望を楽しめる視点場*を保全するとともに、大事にしたい視点場をみんなで見出し出す、眺望を阻害する要素を取り除くなどの取組みにより、杵築らしい眺望を大切にした景観形成を進めます。